

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	2015年3月上旬から中旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2014年12月上旬から中旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。	良くなっている	日本経済は、これまでほぼ横ばいの状況が続いてきたが、ここへ来て緩やかに改善している姿がよりはっきりとしてきた。まず、輸出が上向きになっている。また、それと並行して鉱工業生産の水準も上がってきた。これらには、季節調整が十分にできない中国の春節の影響も入っているはずなので、基調判断に当たっては慎重になるべきであるが、好調な企業収益や底堅い設備投資意欲などを併せ考えれば、企業活動は活発化する方向にあると言える。また、労働需給も引き続き引き締まっており、そのもとで名目雇用者報酬は増加を続けている。4月以降物価に与える消費税増税の影響が剥落すれば、雇用者報酬は実質でもプラスに転化するとみられ、今後個人消費を下支えしていくはずである。
経済の好循環実現に向けた取組について			
2-1	足下の企業収益の拡大が速やかに賃金上昇や雇用拡大につながり、更なる消費や投資の拡大に結び付くためにとるべき対応について、具体的なお考えがございましたら、500字以内でご記入ください。	-	政府はこれまで様々な取り組みを立ち上げてきているが、今重要なことは、さらに新しい取り組みを始めるということよりも、現在進行中の政策対応をしっかりと前進させ、やり切ることであろう。特に成長戦略の取り組みの重要性は一段と高まっており、とりわけ労働市場改革は今後の成長を高めていくうえでも不可欠なことである。グローバル化、高齢化の中で、かなりのスケールで雇用の再配置が必要となっている中で、労働者の基本的権利を守りながら、速やかな雇用の移動を可能とするような環境づくりが急がれている。
2-2	好循環が生まれ始めている一方、非正規労働者や中小企業等への波及が重要との指摘もございます。そうした観点から強化すべき取組について、お考えがございましたら300字以内でご記入ください。	-	マクロ的にみると、失業率が2000年代入り後のもっとも低い水準となる一方、欠員率は逆に最も高い水準となっており、かつ前者よりも後者が高くなっている。このように経済全体としては人手不足化しているにもかかわらず、雇用の充足が不十分な状況にある。労働移動の摩擦を和らげ充足率を高めていくためにも、新たに労働市場に参入してくるものの教育、既雇用者の研修・訓練が重要である。製造業の高度化や経済のサービス化の中で、個人個人が自らの能力を生かせる雇用機会を最大限得られるよう、官民挙げて諸制度の見直し、充実を図っていくべきである。